

# 外国語科(英語)

## 言語材料について、改善されたことは何か。

### 言語材料の構成要素



「音声」，「文字及び符号」，「語，連語及び慣用表現」及び「文法事項」

### 言語材料の改善事項

- 1 「語，連語及び慣用表現」については，指導する語の総数を1200語程度とした。



※ より豊かな表現を可能にし，コミュニケーションを内容的にもより充実できるようにするため。

語数の増加に伴い，授業時数が各学年とも105時間から140時間に増加した。また，これまで「別表1」として示していた基本的な100語及び「季節，月，曜日，時間，天気，数（序数を含む。），家族などの日常生活にかかわる基本的な語」は当然に含まれてくるものと考えられることから，それらについての規定は今回の改訂では削除された。

- 2 「文法事項」については，従来の学習指導要領で用いられていた「文型」に替えて「文構造」という用語を用いた。



※ 文を「文型」という型によって分類するような指導に陥らないように配慮した。また，文の構造自体に目を向けることを意図してより広い意味としての「文構造」を用いたものである。

### 言語材料の取扱い

- 1 「理解の段階にとどめること」としていたいくつかの事項について，その制限をなくした。



※ これらの事項について表現の段階まで高める指導を行うことができるようにした。

- 2 新たに加えられた事項

ア 発音と綴りとを関連付けて指導すること

イ 文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連付けて指導すること

ウ 語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること

エ 英語の特質を理解させるために，関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること